



東京慈恵会医科大学附属病院  
リハビリテーション科 診療部長  
**安保 雅博** Masahiro Abo

**Profile** 東京慈恵会医科大学卒業  
東京慈恵会医科大学附属病院副院長  
東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座 講座担当教授  
公益社団法人 日本リハビリテーション医学会 理事長

## 自己紹介 ~self-introduction~

東京慈恵会医科大学附属病院で副院長ならびにリハビリテーション科の診療部長を務めている安保雅博です。リハビリテーション科は、「活動を育む医学」として、疾病や外傷で低下した身体的・精神的機能を回復させ、障害を克服しながら、人の営みの基本である「活動」に着目し、その賦活化を図ることをします。中でも私は脳血管障害後遺症である片麻痺や失語症の患者さんの診療を中心におこなっています。2001年から約23年間本院に勤務しており2007年からリハビリテーション医学講座を主宰しています。

## 信念 ~belief~

私ども東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座は、1988年に開講し国内では8番目に古い歴史を有しています。その診療におけるモットーは、臓器別の診療や検査データにばかりとらわれることなく、体全体としてアプローチする、あくまでも人として向き合う姿勢にあります。本学の建学の精神である「病気を診ずして病人を診よ」という言葉に従って、患者さんのもつ個々の疾患や障害のみにとらわれることなく、生活者としての患者さんの全体像を把握し、様々な側面から治療のためのアプローチが行えるようにしています。

# 「活動」に着目し、その賦活化を図る 活動を育む医学

## ■ 附属病院リハビリテーション科の特徴

東京慈恵会医科大学附属病院は港区西新橋に位置しています。2020年に600㎡を超えるリハビリテーション室ができました。入院患者さんには主に急性期リハビリテーション治療をしています。当院リハビリテーション科には、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が29名配置されており、リハビリテーション科医師と常に両輪を意識し、各診療科からの依頼に対して高水準のリハビリテーション医療が展開するように務めています。当院は6つの

部署に分かれた管理を行っており、いかなる疾患に対しても対応できるよう運営しています。希少例や難治症例の治療に関しては、国内外の報告を基にしたディスカッションを行い、積極的な診療支援が行えるように心掛けています。

さらに、脳卒中後麻痺や失語症を中心とした高次脳機能障害に対して、世界に先駆けて体系化した、反復性経頭蓋磁気刺激治療 (rTMS) と集中的リハビリテーション治療の併用療法を2008年度からおこなっています。また、脳卒中や脊髄損傷後の上肢下肢痙縮に対してはボツリヌス毒素注射 (BoNT-A) をしております。必要によっては、rTMSとBoNT-Aを併用する治療法も行っています。



このコーナーでは、慈恵大学の4つの附属病院で活躍されている教職員を「慈恵人」として紹介します。第3回は、附属病院(港区西新橋)のリハビリテーション科、安保雅博診療部長をご紹介します。安保先生に現在附属病院リハビリテーション科で取り組まれていることや、ご自身が「慈恵人」として日頃から患者さんに対して心がけていることなどを伺いました。



附属病院



附属病院  
リハビリテーション科

# TEAM JIKEI

## ~全ては患者さんのために~

### 病院を支えるコメディカルの紹介(リハビリテーション科編)

病院を支える医師以外の職種(コメディカル)について、ご紹介するコーナーです。リハビリテーション科の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士は、医師や看護師をはじめ、他のコメディカルスタッフとも連携し、患者さんの生活機能の回復に向けたサポートを行っています。

#### 附属病院(本院) 技師長



附属病院(本院)  
技師長・准教授  
**中山 恭秀**  
Yasuhide Nakayama



附属病院(本院)  
リハビリテーション科  
(セラピスト部門)

#### ●附属病院(本院)の職種紹介

慈恵医大には、建学の精神である「病気を診ずして病人を診よ」の教えに基づき、日々研鑽を重ねる優秀なリハビリテーションスタッフが74名在籍しています。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士は、ともに協力し合い、医師や看護師をはじめとした様々な医療技術職と連携しながら患者さんの回復のために全力を尽くします。

#### ●患者さんへのメッセージ

日々の治療はもちろん、転院される際は転院先の医療機関との間で情報共有をはかり、ご退院される際はご自宅で行う運動や介護の方法についてもご指導いたします。技量のみならず、人格的にも自慢のスタッフです。どうぞお気軽にお声掛けください。

#### 第三病院 PT(理学療法士)



第三病院  
理学療法士  
**寺尾 友佑**  
Yusuke Terao



第三病院  
リハビリテーション科

#### ●理学療法士(PT)の職種紹介

理学療法士は、「足が動かしにくい」や「歩くことが難しい」など、生活に必要な動作に支障を生じている方に対し運動療法や物理療法などを用いて、その方の課題を改善し生活を支援するリハビリテーション職種の一つです。

#### ●患者さんへのメッセージ

治療や支援の内容は、対象となる身体機能や生活環境などを評価したうえで個別に設定され、それぞれの目標に向けた治療プログラムの作成を行います。生活に必要な動作に関することでお困りことがあれば、我々理学療法士が皆様を支援させていただきます。

#### 葛飾医療センター ST(言語聴覚士)



葛飾医療センター  
言語聴覚士  
**若林 真紀子**  
Makiko Wakabayashi



葛飾医療センター  
リハビリテーション科

#### ●言語聴覚士(ST)の職種紹介

言語聴覚士は「ことばによるコミュニケーションの問題」「食べることに伴う問題」がある方に対し、医師の指示の元に専門支援を行う職種です。問題を明らかにするために検査・評価を行い、必要に応じて訓練、指導、助言などを行います。

#### ●患者さんへのメッセージ

日常の何気ない会話やお食事は、自分らしく生活する上で欠かすことのできない行いです。聴く・話す・食べる事に問題が生じた時、私たちSTは、医師や他コメディカルスタッフと連携し支援を行っております。

#### 柏病院 OT(作業療法士)



柏病院  
作業療法士  
**佐橋 郁美**  
Ikumi Sahashi



柏病院  
リハビリテーション科

#### ●作業療法士(OT)の職種紹介

けがや病気によって障がいを負ってしまった人に対して、日常生活(食事、入浴、仕事など)に関わる全ての活動の再開を治療・支援しています。慈恵大学では、脳卒中や骨折、ICU、就労支援など幅広い分野で活躍しています。

#### ●患者さんへのメッセージ

急な怪我や病気で先の事を考えられない、不安だと感じると思います。皆様が大切にしている、もう一度やりたいことをOTにご相談ください。あなたらしい生活を取り戻すために一緒に治していきましょう。



Vol.3 高尚な組織づくり

高木兼寛は、何か事業をはじめるときには、まず志を同じくする者を集め、組織し、その組織全体で目的に向かうのを常とした。そして組織は大きくするよりも、むしろ各メンバーの志の高さを問題にした。そのことは成医会を組織するときにも同じことであった(成医会が慈恵医大の前身、医会成医会講習所をつくったことは説明するまでもないであろう)。当時、成医会の入会費は3円、会費は月額1円という高額であり(現在の価値にすると、それぞれほぼ3万円、1万円に相当する)、会員のなかには入会金を1円に、会費を月額30銭に下げて、会員をもっと増やすべきではないかという意見をだす者がいたが、兼寛は断然これに反対であった。そして「現在の入会費、会費に耐えないものは、即ち本会の目的に協力する資格のないものであるから、あえて費用を廉価にして人の多きを求める必要はない」というのがその理由であった。

病院や医学校の医師、教員を組織する場合にもそれは同じことで、これぞと思う人物があれば強引に勧誘した。日高 昂(後の慈恵医専眼科教授)がまだ青年医師であった頃、同じ日向出身の大先輩として兼寛を訪ねたことがあったが、そのとき兼寛はこの人物がよほど気に入ったらしく、後に高給をとって仙台の病院に勤めていた日高にこんな手紙を送っている。「君は往年東京に出てよいと云っていたが、今もってその意であるか。じつは自分設立の東京病院において瀨脇ドクトル(院長)が辞職するについては、その後任として君を招きたい。給料はいま摂っているだけ遣る、また別に手当てがあるならそれも遣る、住居の世話もして遣る」というのである(表現があまりに率直すぎて可笑しいほどである)。日高はその熱い勧誘にしたがって兼寛の配下に入り(明治25年)、期待どおり同病院の院長ならびに眼科の主任として大いに活躍した。同氏の手術は神技に近く、いたるところ可ならざるはなく、多くの手術に靈腕をふるった。また同氏の慈恵医専における講義やホリクリは極めて明快であり、学生にすこぶる好評



であった。有名な訳著「明氏眼科学」も数少ない当時の専門書としてはなはだ学会に資するところが大きかったといわれる。

もう一つの例も(成功はしなかったものの)同じような話であるが、この場合の目標は野口英世であった。慈恵医専初期の細菌学の専任講師は、伝染病研究所で北里柴三郎に師事していた秦佐八郎であったが、秦は明治40年ドイツのエールリッヒのところに留学したため、その後任を探さねばならなくなった。

兼寛は秦の後任として、やはり北里の門弟であり、当時ロックフェラー医学研究所に留学していた野口英世を是非招きたいと考えた。兼寛が米国を視察旅行したとき(明治39年)、その研究所で青年野口が華々しく活躍していたからであった。しかし、そのことを野口に打診したところ、彼からは米国での研究を続けたいため、残念ながらご意向に沿えないという返事があった(兼寛からその結果を聞いた北里は、代わりに同じ門弟である綿引朝光を推薦した。つまり本学の初代細菌学教授である)。招聘には失敗したとはいえ、その後の野口の国際的活躍をみれば、兼寛の人を診る目が如何に確かだったかがよく分るのである。

一方、兼寛には、いったん自分らの仲間になった以上は、よかれあしかれ最後まで面倒をみなければならぬといった考えがあった。ある時、医学校の事務長が会計をごまかしたことがあった。そのことを人から知った兼寛は、翌日その事務長の月給を上げてしまった。「月給が足りないからやったんだろう、悪い人間じゃない、きっとよくなる」と言うのであった。もちろんその後は、そんなつまらないことは起こらなかったという。

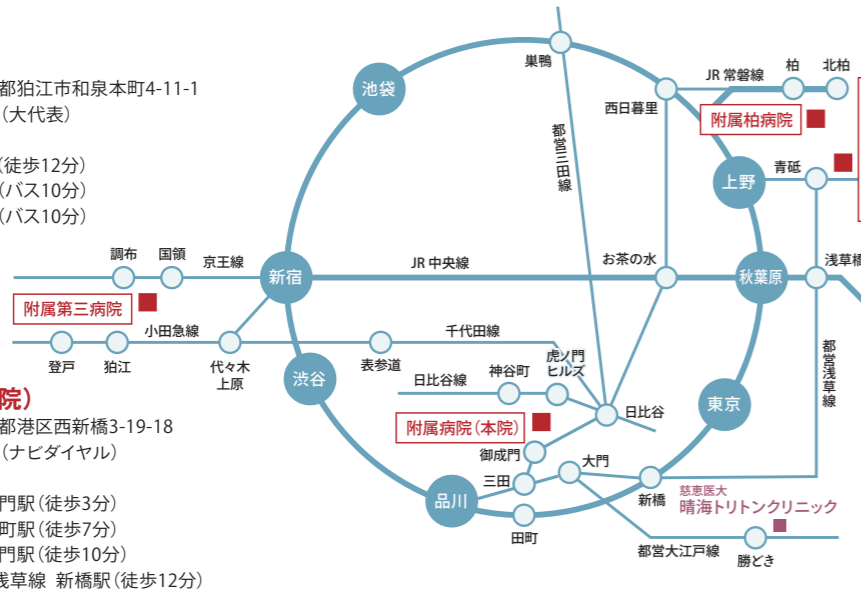
晩年、兼寛は、長男であり後継者になった高木喜寛に、組織の和について、このように話したことがあった。「何かの争いがあったら、必ず両方の話を聞いて裁け。片方の言い分だけで裁いてはいかんぞ」と。これも組織の維持のための心得だったのであろう。

写真: 日高 昂教授(右上)と当時の眼科研究室 出典: 法人広報誌「The JIKEI」第4号

Access

**第三病院**  
〒201-8601 東京都狛江市和泉本町4-11-1  
☎03-3480-1151(大代表)  
Access  
京王線 国領駅(徒歩12分)  
京王線 調布駅(バス10分)  
小田急線 狛江駅(バス10分)

**附属病院(本院)**  
〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18  
☎0570-03-2222(ナビダイヤル)  
Access  
都営三田線 御成門駅(徒歩3分)  
日比谷線 神谷町駅(徒歩7分)  
銀座線 虎ノ門駅(徒歩10分)  
JR・銀座線・都営浅草線 新橋駅(徒歩12分)



**柏病院**  
〒277-8567 千葉県柏市柏下163番地1  
☎04-7164-1111(大代表)  
Access  
JR常磐線 北柏駅  
(徒歩10分/バス5分/タクシー5分)  
JR常磐線 柏駅  
(徒歩25分/バス15分/タクシー10分)

**葛飾医療センター**  
〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2  
☎03-3603-2111(大代表)  
Access  
京成線 青砥駅  
(徒歩10分/バス6分/タクシー5分)  
JR常磐線 亀有駅  
(バス10分/タクシー5分)

よつば 第4号



広報誌「よつば」について  
東京慈恵会医科大学は4つの附属病院を有しています。「四つ葉のクローバー」のように4病院が有機的につながり合い、力を合わせ、患者さんを中心とした医療を実践していくという思いを込め、誌名としました。



Contents

第3回 慈恵人  
附属病院(本院)リハビリテーション科 診療部長 安部 雅博

- TEAM JIKEI  
~全ては患者さんのために~  
病院を支えるコメディカルの紹介  
(リハビリテーション科編)
- Jikei History Vol.3  
評伝 学祖 高木兼寛  
高尚な組織づくり